

～見通しをもって「今」の改善に繋がりたい～

## ICT活用教育の実践発表

西春近北小学校 齊藤直明 先生



自己表現力と伝える力の育成のため、スクールタクトで図や動画による表現を行い、友と共有しました。これにより、根拠ある予想や音楽の背景に迫る探究へと学びが深まってきました。

長谷小学校 川前大樹 先生



小規模校の課題に対応するため、ICTで個別最適・協働的な学びを充実させました。子どもたちには失敗を恐れず挑戦する姿が育ってきています。また、指導力向上のため日常的に授業を参観し力量を高めています。

高遠中学校 花村純平 先生



深い学びと効率的な働き方の実現を目標に、ICTを活用しています。理科でデジタル化により深い考察に集中し、校務ではTeams活用で職員の業務が効率化し子どもたちと向き合う時間を増やすことができました。

## 特別講演会

講師：武藤 久慶 氏（文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長GIGA StuDx推進チーム 副ディレクター）



文部科学省の武藤氏から次期学習指導要領の検討背景と方向性についての熱のこもった講演をいただきました。内容も盛りだくさんで多くのことを学ばせていただきました。

参加者からは「現在の社会の情勢や子どもたちの実態や子どもたちを取り巻く状況をもとに、お話いただき、納得できることがたくさんありました。学びの本質を見定め、ICTを適切に使うことで、より『賢く学ぶ』こと『賢く教える』ことにつながるということ

校内で共有できました。教師のあり方も変化に合わせてアップデートしていけるようにしていきたいと思えます。」「今後に向けた教育について、具体的かつ根拠のあるお話をいただけました。内容が多すぎて消化しきれなかったため、別に時間をとって、もう一度資料を見ながら学習したい思います。」といった感想が寄せられました。

そこで、講演内容についてのキーワードをいくつか示しますので振り返ってみてください。

## 審議の背景としておさえておきたいトレンド

人口減少と少子高齢化

グローバル化の加速と多様性

デジタル化（Society 5.0）の進行

変化のスピードの加速

## 主体的に学びに向き合っていない子が増えている

不登校児童の増加（特に小学生）

学びの理解度のバラツキの増大

多様な認知の特性を持つ児童への対応

個別最適な学びの環境への強いニーズ

## 学習指導要領の浸透は道半ば

自立的に学び続ける自信の不足

認知心理学や脳科学の知見の活用

知識の深い理解と概念の獲得の不徹底

学校内における同調圧力と正解主義

## GIGAはまだ緒についたばかり

効果的な活用の未定着

家庭でのデジタル利用増加と学習時間減少

情報検索・貼り付けに留まる「浅い学び」

情報活用能力の抜本的な向上

## 高度な教育課程と働き方改革との両立

実現可能性の確保

学習評価の頻度見直しと形成的評価の充実

標準授業の弾力化による余白の創出

指導内容の精選と中核的概念への重点化

※講演会后、職員室の各所で議論が湧き上がったという感想もありました。  
ぜひ、このキーワードをもとにさらに職員室での議論を深めていただきたいと思います。



会場では伊那市内の各校の情報委員、研究主任、学力向上検討委員の先生方が参加。また、Zoomで各校と接続し研修が行われました。